

門議員

その他の質問
・勝山市の課題解決について
・新しい教育委員会制度について
・通学路の安全対策について

勝山市の課題解決について ○人口減少対策等について

Q 質問
人口減少が続く勝山市にとつて、結婚問題への取り組みは喫緊の課題であり、この課題に取り組みためのマンパワーを確保するため、結婚相談員の数的、質的な充足を図るための身の確保と待遇改善、及び嘱託職員化が必要と思われるので、市として取り組む方策をお尋ねする。

A 答弁
結婚相談員の数的、質的な充足を図るべきとのご提案ですが、相談員には結婚だけでなくいろいろな相談を同時に持ちかけられるので、今後も豊かな経験と見識に優れた地域の方々の連携協力を頂きながら、併せて勉強会や講師を招いての講習会を実施し、さらに資質向上をめざしていきたい。

今年度については、近年、結婚を希望する本人自身の来所相談が増加傾向であることや、イベント実施の告知などに、若者がよく使用しているフェイスブックやフリーペーパー誌、ホームページなどを使って、相談しやすい環境をPRするとともに、イベントへの積極的な参加を促すための宣伝に力をいれていきたいと考えている。

空家等対策の推進に関する 特別措置法への取り組みについて

Q 質問
空き工場の家屋を解体して更地にし、企業誘致のための事業所用地として再利用することができるとは思いますが、勝山市内にはどのくらい空き家が存在し、そのうち老朽化した廃屋がどのくらいあるのかお尋ねする。

A 答弁
空き工場の解体による敷地の更地化については、担保物件となつていたり事例や土地所有者の意向等、単純には進められないことなど事例ごとに対応が異なり一律には対処できないと考えるが、その方向性について課題を検討していく。

平成26年度の空き家調査結果では、専用住宅、店舗併用住宅、倉庫を合わせた市内の空き家の棟数は480棟にのぼり、平成25年度調査より40棟増加した。そのうち十分に管理がなされていない廃屋は86棟となつており平成25年度から6棟減少した。



下道議員

その他の質問
・交通弱者や観光客のためのやさしいまちづくりについて
・北陸新幹線金沢駅までの開通による経済効果について
・地域おこし協力隊の活動について

交通弱者や観光客のための やさしいまちづくりについて ○まちなか周遊バスについて

Q 質問
高齢者や、車イスの方にとつて、本町へおられる急な坂道がとも負担になっていたり。下る時はいいが、坂道を上るのは、地元の方でも途中で休んでいるのを見かける。
バス停は、尊光寺前にしかないの、例えば「まちなかめぐり」をしている観光客が「花月楼」まで行き、栄町辺りからバス停に引き返すにはけっこうな距離があり大変だ。飛騨高山などの観光地や大野市にもある1乗車100円ほどで町なかをぐるぐる回っている「まちなか周遊バス」を市でも導入できないか伺う。

A 答弁
平成27年10月1日の運行改正に際して、沢町、長湫口、本町1丁目、新たなバス停を設置することにより、尊光寺前バス停を兼ね、まちなか観光拠点であるたや記念館「ゆめおれ」に駐車された観光客が、本町、後町、河原町通めおれ」に戻る場合も乗降可能となる。

今回のバス運行の見直しにより、中心市街地のバス事情はさらに改善できるものと考えている。

田んぼの、のり面の環境 保全について

Q 質問
勝山市は、中山間地域が多く、平坦地の水田を持つ農家が多い地域となつていたり。傾斜のり面が長大になっていて、傾斜も急な水田では、足場が不安定でもあり、単なる機械での草刈りと言つても、腰がつかなくなる上に滑落する危険を伴った重労働の仕事となつている。また農業従事者年齢が60代から80代と高齢化しているのも大変な理由の1つ。

A 答弁
国の制度である中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金を活用し、のり面に防草シートを設置し、その上に景観に配慮したシバザクラを植える取り組みをする集落が増えてきた。まずはこうした交付金を活用し、地区における長大な面の保全管理に努めて頂きたい。また、地区として取り組めない場合にあっては、他の地区と共同で取り組むことも可能であり、多くの方が利用できるような相談に乗っていききたい。



シバザクラ

一般質問